

## 実践報告

## 札幌市立伏見小学校

### (1) 研究内容

研究課題：「サッポロピリカコタンを活用した学習の研究」

- 北海道の先住民族アイヌの人たちが築いてきた歴史や文化について、体験や見学を通して学び、自然を生かしたり、克服したりする知恵や工夫を明らかにし、現在の生活とのつながりを見方・考え方を働かせて捉える力を育む。

### (2) 実践の内容

【実践①】アイヌの人たちが築いてきた歴史や文化について、体験や見学を通して学ぶ

#### ○ ねらい

アイヌの人たちの昔の生活や文化に関心を持ち、調べる意欲を高める。

#### ○ 学習内容

【歌や踊り、遊びの紹介】



【遊びの体験】



- ・アイヌの人たちが大切にしてきた歌や踊りを「見て、聞いて、やってみて」自然と共生してきたアイヌの人たちの思いや願いを学ぶ。
- ・アイヌの人たちの自然を生かした遊びを体験し、楽しさや面白さを感じることで、アイヌの人たちの昔の生活の知恵を学ぶ。

【実践②】現在の生活とのつながりを関係的な見方・考え方を働かせて捉える

#### ○ 学習内容

【生活道具の観察】



【住居（チセ）やトイレの観察】

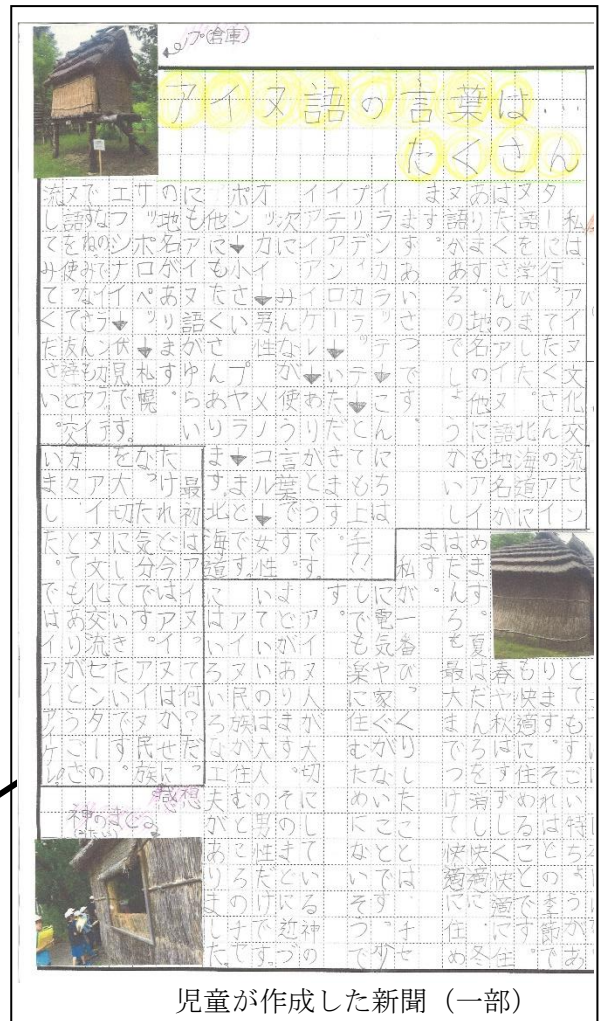


- ・アイヌの人たちが使っていた道具を調べ、自分たちの生活との共通点を見いだす。
- ・アイヌの人たちの住居（チセ）やトイレを観察し、共通点や相違点を考える。

### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

- サップロピリカコタンを訪れ、歌や踊り遊びを体験したことで、先住民族アイヌの存在を身近に感じる機会となった。
- アイヌ民族が自然物に感謝して生活していたことや、自然と共生していたことに感銘を受けた子が多くおり、自分たちの身の回りの物の使い方を考え直そうとする姿が見られた。
- スタッフの方の説明を聞くことで、北海道の歴史、文化について正しく理解することができた。また、道徳「C国際親善 国際理解」の学習とつなげて取り組んだことで、より理解が深まった。
- 学習の最後に新聞づくりを行った。学習を通して、たくさんの知識を得て、考え方が変容した様子が書き表されていた。
- アイヌ民族の生活の知恵が現在の生活に生かされていることに気付き、より関心をもって追究することができた。
- 夏休みの自由研究でアイヌ文化について更に探究する児童もおり、興味・関心の広がりが見られた。



児童が作成した新聞（一部）

#### ② 課題

- 「もっとたくさん聞いて、もっとたくさん見たかった。」という児童の声が多かった。実物に触れたり、体験したりすることの教育効果は絶大である。社会科と総合的な学習の時間等の関連を図ることで、より教育効果が上がるよう工夫をするとよい。
- 3年生が使用している副読本に、アイヌ語に関する内容がある。3年生と4年生の学習の接続をしっかりとっておくと、教育効果がより大きいことが分かった。

#### ③ 提言「人権教育のすすめ」

- 道徳「C 国際親善 国際理解」の学習で、オーストラリアの先住民族のことを学んだ。子どもは、アイヌ民族と関係付けて、民族について理解を深めた。人権教育において、本校では総合的な学習の時間や外国語活動においても、異文化交流・異文化理解の取組をしている。教育課程を工夫して編成することで学習の価値が高まる。